

活性汚泥の関する依頼測定・テスト詳細

2020/12/29

株式会社 小川環境研究所

1. 概要

弊社所有の測定・テスト機器とテスト要員を使って、依頼者に代わって弊社がテスト作業を請け負う方法です。依頼時、両者で基本的なテスト内容を取り決め、テスト開始。テスト経過は要所でネットにアップし、依頼者はパスワードでテスト状況・データを閲覧し、データをみてテストの経過を判断してテストの進行状況を指示。依頼者は自身の実験室でテストする感覚で活性汚泥テストを行えます。費用は、テストという性格上、事前にすべてを読み込むことは不可能ですが、基本は 1 日の実験室使用単価×使用日数+分析費用+諸経費です。費用については事後清算など、フレキシブルに対応可能です。

2. 依頼方法

①以下の依頼するテスト概要について、弊社宛メールでご相談ください。

- ◎テストの概略内容
- ◎使用テスト機器と使用期間
- ◎概略予算見込み

注：多量の毒劇物/有害物を取り扱うテストはできません。

②テスト計画の作成・合意

依頼内容をうけて、電話・メールなどで内容を煮詰め、合意内容についてテスト計画と費用の見積もりを作成します。

テスト計画は、

- ◎培養テスト機の稼働方法（使用台数、運転方法、原水添加量、pH、温度、DO、MLSS などの運転条件）をテスト前の段階で想定する。
- ◎分析の項目・測定頻度・サンプリングのタイミングと測定結果の報告方法。

3. 発注

合意内容に基づき、弊社から正式な見積書とテスト仕様書を送ります。

発注をうけてテストを実施します。

注：発注前までの作業は無料です。

4. テスト経過

①テスト試料の送付

依頼者→弊社へ、テストに必要な活性汚泥混合液や添加試料をクール便で送付。

②テスト中の途中経過

テスト中の状況や分析項目の測定結果は、逐一ネットにアップするので、依頼者はいつでも閲覧可能です。また、依頼者は、テストの経過の状況判断から、培養条件の変更や分析項目の変更・追加などの指示が可能です。

③テスト終了

テストである以上、結果が思い通りになるとは限りません。予定より早く結果が出る場合や、予定以上に培養期間がかかる場合など、発注時点でのテスト内容と異なる場合には、テスト費の減額/増額など事後清算となります。

5. テスト機器

①活性汚泥培養テスト機

曝気槽容量：約 1 リットルの活性汚泥テスト機

4 連培養テスト機 2 基、2 連培養テスト機 1 基

運転方法：連続式活性汚泥、連続式好気嫌気活性汚泥、回分式活性汚泥、他

原水添加方法：一定量マニュアル操作、プログラムによる 3 時間毎の添加量変化

制御方法：曝気量マニュアル操作、DO 一定制御、極低 DO 制御

：pH マニュアル調整、pH 自動制御

②担体活性汚泥テスト機

曝気槽容量：約 1.7 リットルの活性汚泥テスト機

③ジャーテスター

容量 1 リットル×4 台の凝集処理テスト 1 基

④TS チェッカー

汚泥の活性、原水の分解性、測定用 4 基

6. 分析項目

BOD、COD、TOC、DO、pH、EC、ORP、MLSS、MLVSS、顕微鏡 (max800 倍)

T-N、NH₄-N、NO₂-N、NO₃-N、T-P など

弊社で分析できない項目については、サンプリング試料を依頼者または第 3 者分析機関にだすことも可能です。